

これまでの経緯

旧安田楠雄邸庭園は、大正8年に「豊島園」の創始者である実業家・藤田好三郎氏によってつくられ、大正12年には旧安田財閥の創始者・安田善次郎氏の女婿・善四郎氏が買い取り、お住まいになっていました。平成7年にご当主の楠雄氏が亡くなられたあと、幸子夫人が市民団体「文京歴史的建物の活用を考える会」の助言を得て、平成8年8月22日に庭園と建物を現在の公益財団法人日本ナショナルトラストに寄贈したものです。

平成10年3月には、「大正時代から昭和初期の東京山手の庭園と住宅の雰囲気」を今に伝え、貴重な価値がある」として東京都の名勝に指定されました。平成15年には建物の本格的な修復工事に着手し、平成19年から一般公開を開始しました。



創建時の姿(当時は藤田邸) 写真:田中慎一郎氏蔵

旧安田楠雄邸庭園の維持修復にご協力ください

公益財団法人日本ナショナルトラストは、国民的財産である美しい自然環境や貴重な文化財・歴史的環境を保全し、活用しながら後世に継承していくことを目的に、英国の環境保護団体である「ザ・ナショナルトラスト(The National Trust)」を範として、1968年に設立された公益財団法人です。

旧安田楠雄邸庭園は、ボランティアスタッフが中心となり一般公開を行っています。ボランティアへの参加、維持修復のための募金にご協力をお願いいたします。

公益財団法人 日本ナショナルトラスト

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル4F
TEL: 03-6380-8511 / FAX: 03-3237-1190
<http://www.national-trust.or.jp/index.html>
E-mail: info@national-trust.or.jp

一般公開について

毎週水・土曜日 10:30~16:00(入館は15:00まで)

※イベントによる連続公開、悪天候等による休館、夏季・冬季休館もございますので、お問い合わせください。

見学にあたっての注意事項

- ご入館の際は、靴下の着用をお願いしております。
- 大きな荷物は土壁や襖を傷めますので、玄関でお預かりしております。ご協力をお願いいたします。
- 建物保護のため、入館人数を制限する場合がありますので、ご了承ください。
- 敷地内は「火気厳禁」です。
- 見学の際は、スタッフの指示に従ってください。
- 団体見学、取材・撮影等をご希望の場合は事前にご相談ください。

入館料(維持修復協力金)

一般 : 大人 500円 中高生 200円
小学生以下(保護者同伴) 無料
(公財)日本ナショナルトラスト会員 無料

交通案内

- 東京メトロ千代田線 千駄木駅1番出口徒歩7分
(エレベーター口が便利です)
- JR 山手線 日暮里駅・西日暮里駅徒歩15分
- 文京区コミュニティバスB-ぐる18番「特養ホーム千駄木の郷」徒歩1分
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。



旧安田楠雄邸庭園

〒113-0022 東京都文京区千駄木5-20-18
TEL & FAX 03-3822-2699(ただし、公開日のみ)
<http://www.national-trust.or.jp/properties/y-tei/y-tei.html>

Property of Japan National Trust

東京都指定名勝

旧安田楠雄邸庭園

The Former Kusuo Yasuda Residence and Gardens



(撮影: Designparts 福田 啓)

公益財団法人 日本ナショナルトラスト

Japan National Trust
for Cultural and Natural Heritage Conservation



旧安田楠雄邸庭園の特徴

旧安田楠雄邸庭園は、本郷台地上の北側、かつてはいくつかの銀行の頭取などが居を構えたことから「銀行通り」とも呼ばれた通りに面した場所にあります。敷地は東西に細長く、雁行式(がんこうしき)に建てられた邸内の各部屋から南側の庭園を望むことができます。

邸宅部分は、新旧の技術を巧みに取り込んで建てられた近代和風建築です。関東大震災、第二次世界大戦などの被災も免れ、創建当初からほぼ改造されることなく大切に住み継がれ、今日までその姿を伝えています。

邸内唯一の洋間である応接間には修復された家具調度が置かれ、当時の生活の様子がうかがえます。そして残月の間へと続く畳廊下は、奥行き長い建物の特徴をよく示しています。

残月の間の床の間は、京都・表千家の残月亭を写したもので「残月床」と呼ばれています。毎年、安田家から寄贈された雛飾りや五月飾りを残月床に飾り、季節の行事も行っています。



台所は楠雄氏ご結婚の際に、嫁がれる幸子夫人のためにその当時最新であった「アイランド型」配置のキッチンへと改造されました。当時の面影を伝えるガスレンジや木製の冷蔵庫、蠅帳(はいちょう)などが今でも残されています。

2階の書院造りの客間は邸内で最も格式が高く、緑豊かな庭園も見渡せます。

庭園は、各部屋から座って眺めるための造りとなっており、それぞれに違った趣の景色を楽しむことができます。創建当初はアカマツを中心とした枯山水(かれさんすい)の庭に園路を設け、芝生を取り入れた和洋折衷の造りであり、この時代の庭園の特徴を兼ね備えたものとして邸宅と共に高く評価されてきました。現在は、枯山水の石組みやカヤ、カシワなどの大樹が創建時から受け継がれ、庭園の重要な要素となっています。



(撮影: Designparts 福田 栞)



安田邸の文化財としての価値について

故 大河直躬(千葉大学名誉教授・JNT会員)

日本各地には、まだまだ未発見の歴史的建築が残っています。したがって、東京の旧市内にも未知の貴重な建築が残っているだろうと考えていました。しかし、安田邸を拝見したときには、本当にびっくりしました。

大正8年に建てられた、大規模で質の高い和風の邸宅が関東大震災と第2次世界大戦の被災を免れて、ほぼ完全に残っていました。建築だけではなく、柏やスダジイの大樹が繁った屋敷の環境もよく保存されていました。

内部に入ると、建築意匠は、和風の部分も洋風の部分もともに素晴らしいものでした。応接間のカーテンは、建築当時のものがそのまま使われていました。これも驚きの一つでした。代々の所有者の方が、この建築に非常に愛情を持たれていたことがよくわかります。

(略)

安田邸は、近代和風住宅としての文化財価値は非常に高いと思います。それが屋敷の環境とともに、良好な状態で保存されています。また、安田邸が文京区千駄木という都心に近い場所にあることも、今後の活用において重要な意味をもつと思います。安田邸は、一般市民にとっては、近代の和風住宅の住まい方と良い趣味を学ぶのに絶好の場所です。建築やデザインの学生には生きたお手本になります。きっと外国人も含めて多くの人が訪れるでしょう。

(『日本ナショナルトラスト報』335号(1996年11月号)より抜粋)



配置図および1階平面図